

生駒市における「望ましい学校規模の基準」とその考え方（案）

(1) 望ましい学校規模（学級数）

国が示す望ましい学校規模（学級数）の基準は「小学校・中学校ともに 12 学級～18 学級」であるが、小・中学校の現状と将来的な児童生徒数の推移及び小規模校、大規模校のメリット、デメリット等を総合的に考慮し検討した結果、小学校においては、国の示す基準が概ね妥当とし、中学校においては、独自の基準として、部活動や学校運営の課題が一定程度解消されると見込まれる「9 学級～18 学級」とした。

ただし、校区により児童生徒数の増加・減少割合に差が見られることから、今後の状況変化等へも対応するため、19～24 学級についても、許容範囲とする。

	小規模	望ましい規模
小学校	～11 学級	12 学級～24 学級（各学年 2～4 学級）
中学校	～8 学級	9 学級～18 学級（各学年 3～6 学級） （19～24 学級も許容範囲とする）

(2) 望ましい学校規模（学級数）基準の考え方等

<小学校>

- ① すべての学年でクラス替えができる。多様な出会いを保障し、豊かな人間関係を構築しやすい。人間関係の固定化を避けることができる。人間関係に課題が生じた場合に、クラス替えによって対応することが可能である。
- ② 各学年に複数の担任がいることで、性別・経験年数等バランスのとれた学年編成ができる。その結果、児童への多面的な指導ができる。
- ③ 運動会・音楽会等の学校行事の活性化が図れ、学校全体に活気が生まれる。
- ④ ある程度の教員数が確保できることから、学校運営が余裕を持って行うことができ、様々な課題に対して組織的かつ適切に対応しやすい。

<中学校>

- ① 部活動において、ある程度の部活数・部員数・顧問数が確保できる。
- ② 体育大会・文化祭等の学校行事の活性化が図られ、学校全体に活気が生まれる。
- ③ ある程度の教員数を確保できることから、学校運営が余裕を持って行うことができ、様々な課題に対して組織的かつ適切に対応しやすい。

(3) 望ましい学校規模（学級数）による分類

望ましい学校規模(学級数)により、現在の学校を分類すると以下の通りである。(特別支援学級を除く。)

<小学校>

	小規模校 (～11 学級)	適正規模校 (12～24 学級)	大規模校 (25 学級～)
R1	生駒北、生駒南第二 (2 校)	生駒、生駒南、生駒 台、生駒東、真弓、 俵口、鹿ノ台、桜ヶ 丘、壺分(9 校)	あすか野(1 校)
R6(推計)	生駒北、生駒南第二 (2 校)	生駒、生駒南、生駒 台、生駒東、真弓、 俵口、鹿ノ台、桜ヶ 丘、壺分(9 校)	あすか野(1 校)

<中学校>

	小規模校 (～8 学級)	適正規模校 (9～18 学級)	大規模校 (19 学級～)
R1	生駒南、生駒北、鹿 ノ台(3 校)	生駒、緑ヶ丘、上、光 明、大瀬(5 校)	
R6(推計)	生駒南、生駒北、鹿 ノ台(3 校)	生駒、緑ヶ丘、光明、 大瀬(4 校)	上(1 校)